



PREMIUM WATER
HOLDINGS



証券コード: 2588

2019年3月期（第13期） 決算説明会資料

2019年5月13日（月）

本日のご説明内容

I. 決算数字のご説明

II. 当社が見込む市場規模

III. 統合からの成長

IV. 顧客の純増について

V. 新中期経営計画

VI. EBITDAについて

本日のご説明内容

I. 決算数字のご説明



I. 決算のご説明 1-1. 連結損益計算書

(百万円)

	第12期	第13期	増減	前年同期比
売上高	27,716	37,732	10,016	136.1%
営業利益	△ 1,179	715	1,894	－
経常利益	△ 1,559	259	1,818	－
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 1,493	528	2,021	－
EBITDA	2,251	5,127	2,876	227.8%
1株あたり純利益	△ 56.80円	17.42円	74.22円	－

業績は順調に推移し、通期にて黒字化を達成。

※EBITDAは簡易的に営業利益+減価償却費としております。

I. 決算のご説明 1-2. 通期業績予想と実績値との差異について

(百万円)

	前回発表予想	実績値	増減額	増減率
売上高	38,000	37,732	△ 268	△0.7%
営業利益	700	715	15	2.1%
経常利益	500	259	△ 241	△48.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	300	528	228	76.0%
1株あたり純利益	11.07円	17.42円	－	－

営業利益は、概ね前回予想通りの着地。

経常利益は、投資先への貸付金に対して貸倒引当金153百万円を計上。

また親会社株主に帰属する当期純利益は、繰延税金資産の計上により、
前回発表予想を上回る結果となった。

I. 決算のご説明 1-3. 連結貸借対照表

(百万円)

	第12期(連結)		第13期(連結)		
		構成比(%)		構成比(%)	前年比(%)
流動資産	12,104	50.8	14,883	49.0	123.0
固定資産	11,739	49.2	15,465	51.0	131.7
総資産	23,844	100.0	30,348	100.0	127.3
流動負債	10,123	42.5	12,928	42.6	127.7
固定負債	10,906	45.7	13,800	45.5	126.5
純資産	2,814	11.8	3,619	11.9	128.6
有利子負債	16,961	71.1	20,075	66.1	118.4
流動比率	119.6%	－	115.1%	－	－
自己資本比率	11.7%	－	11.7%	－	－

※有利子負債の中に割賦未払金を含む。

I. 決算のご説明 1-4. 連結キャッシュフロー計算書

(百万円)

	第12期	第13期	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	531	4,800	税金等調整前当期純利益 273百万円 減価償却費 4,412百万円 未払金の増加 1,620百万円 売上債権の増加 △714百万円 仕入債務の減少 △495百万円 前払費用の増加 △301百万円 長期前払費用の増加 △653百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,531	△1,195	定期預金の預入による支出 △250百万円 有形固定資産の取得による支出 △275百万円 無形固定資産の取得 △355百万円 長期貸付けによる支出 △523百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	1,825	△1,927	長期借入による収入4,680百万円 短期借入金の減少 △1,500百万円 長期借入金の返済 △2,581百万円 リース債務の返済による支出 △657百万円 割賦債務の返済 △2,039百万円
現金及び現金同等物の 期末残高	5,055	6,734	

営業CFは大幅に増加。今後も増加を見込んでおります。

本日のご説明内容

Ⅱ.当社が見込む市場規模



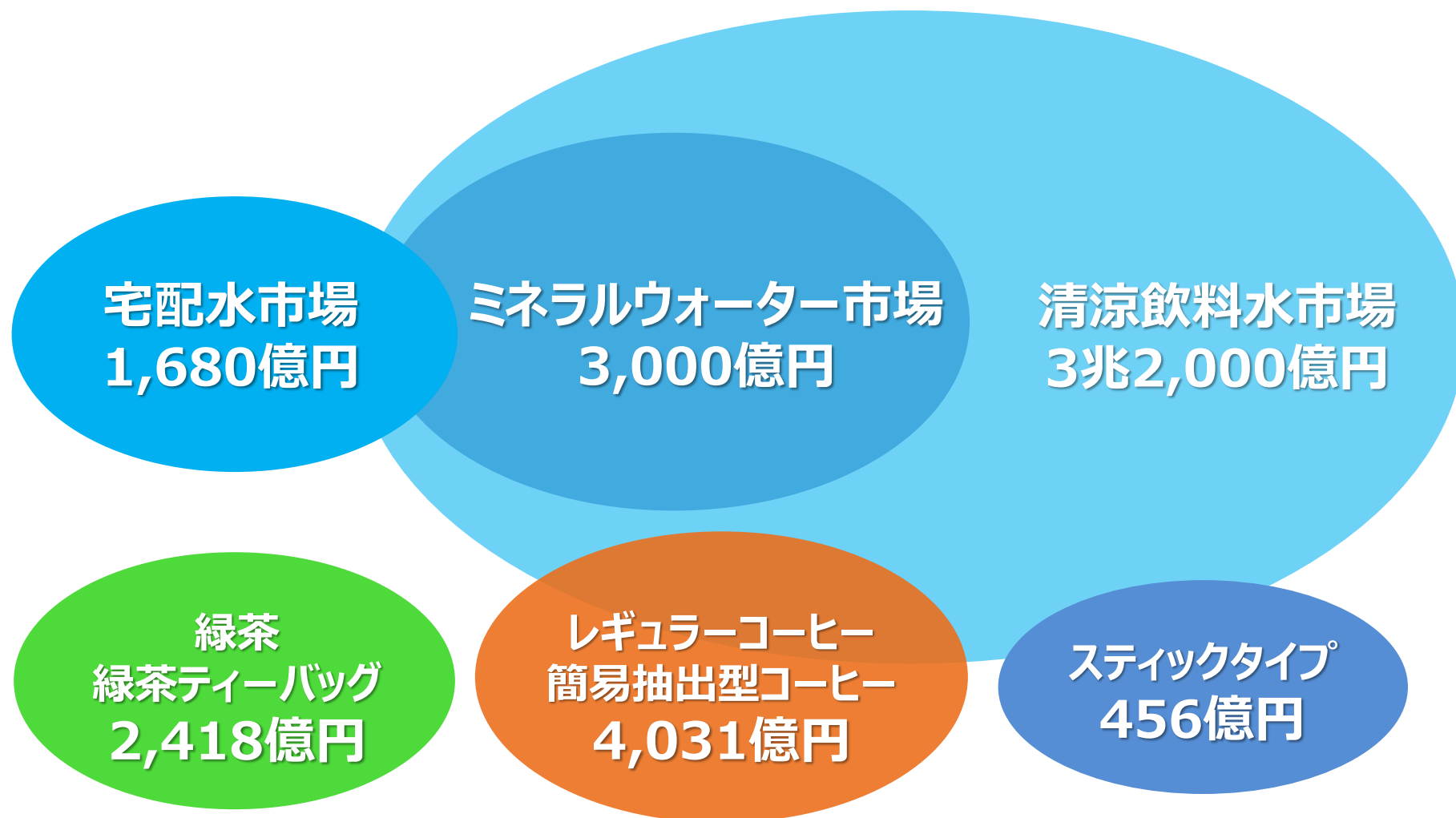
Ⅱ.当社が見込む市場 2-1. 世界の水資源



世界で水道水が飲めるのは約2%

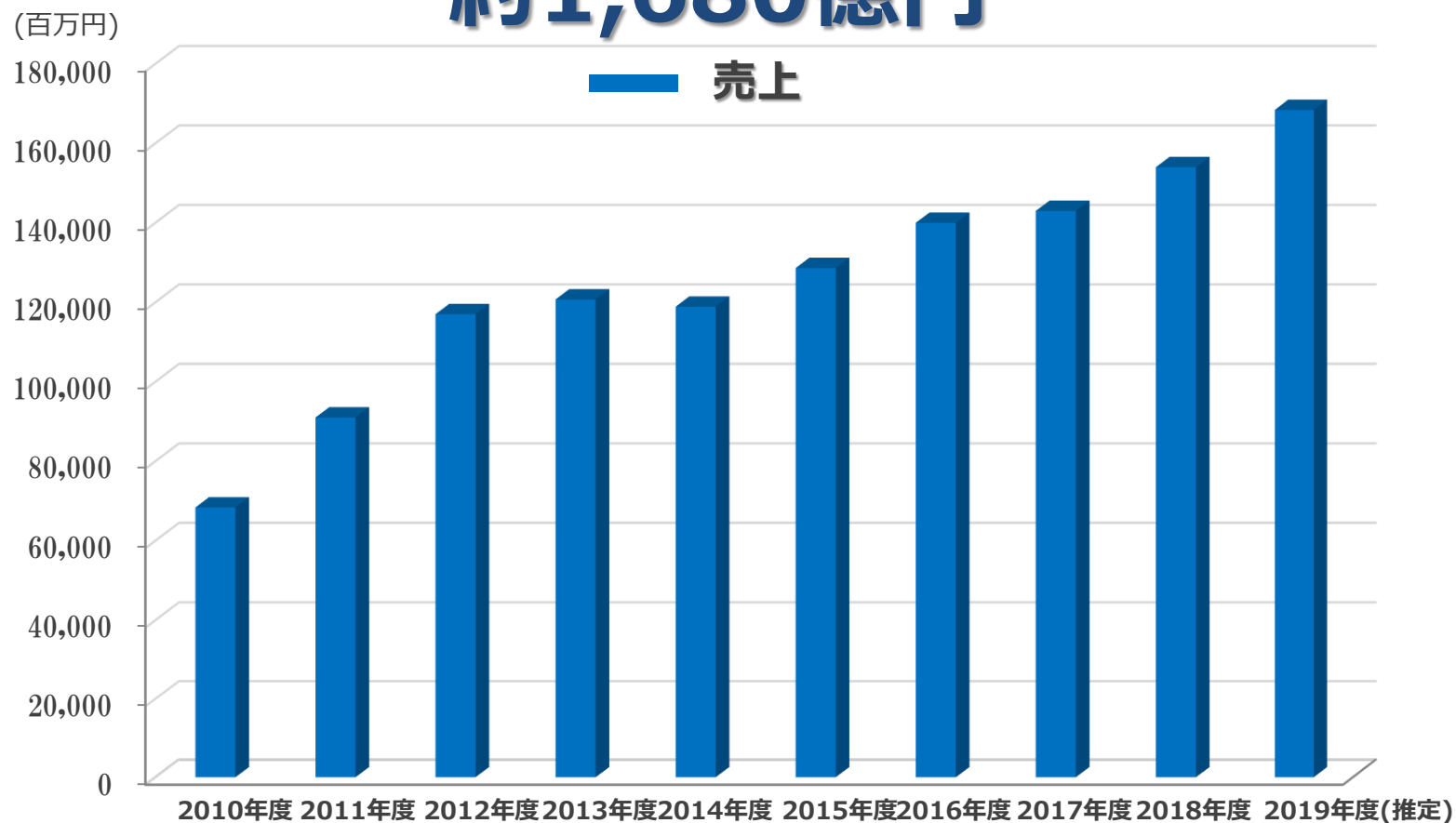
その中で『日本の天然水』の価値は更に高まっている

展開可能な潜在的市場 4兆円規模



Ⅱ.当社が見込む市場 2-3. 宅配水市場

約1,680億円



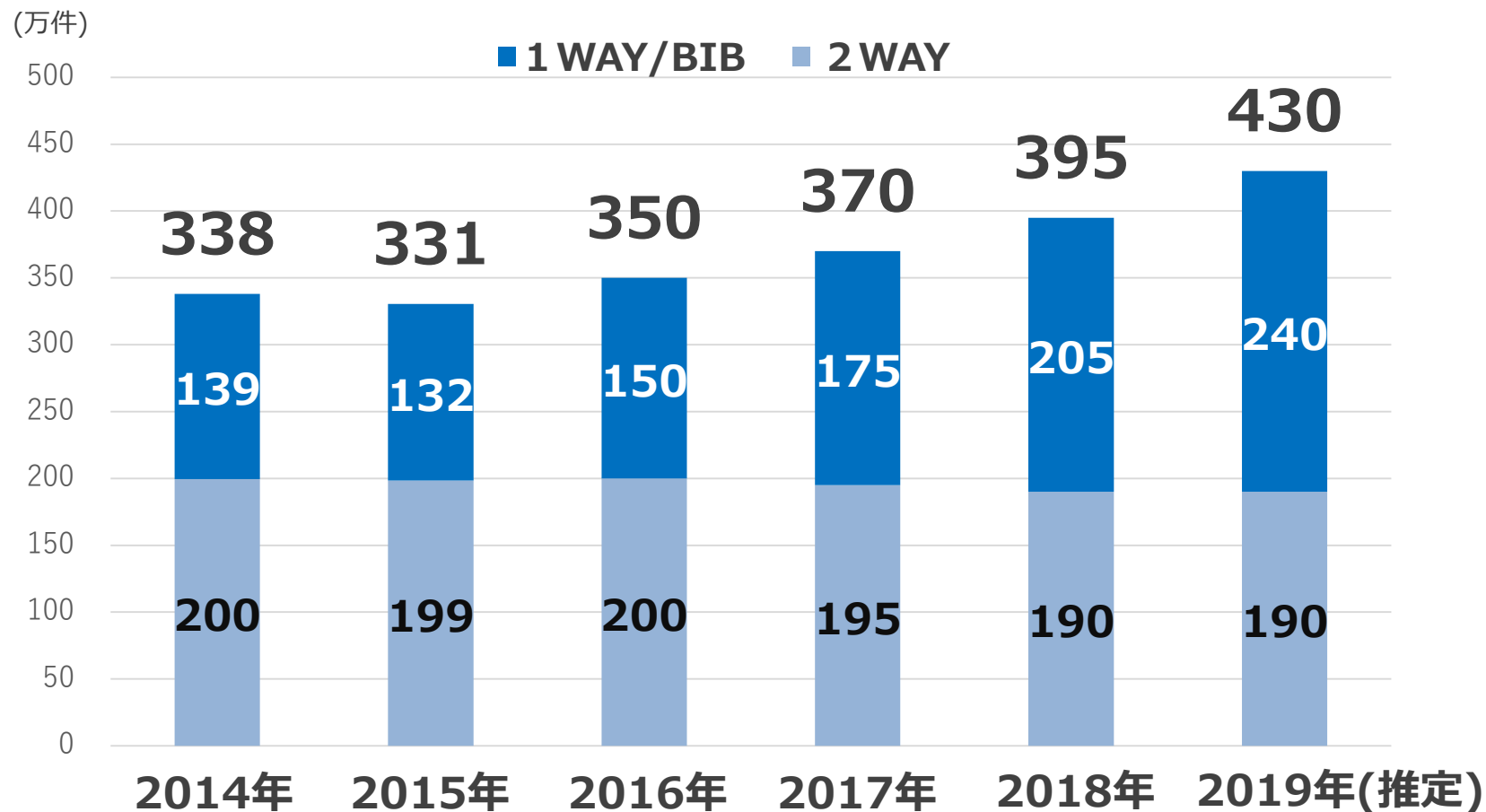
普及率未だ7%程度※

宅配水市場はまだまだ伸びる余地がある

※日本宅配水&サーバー協会(JDSA調べ)

Ⅱ.当社が見込む市場 2-4. 宅配水市場—顧客数

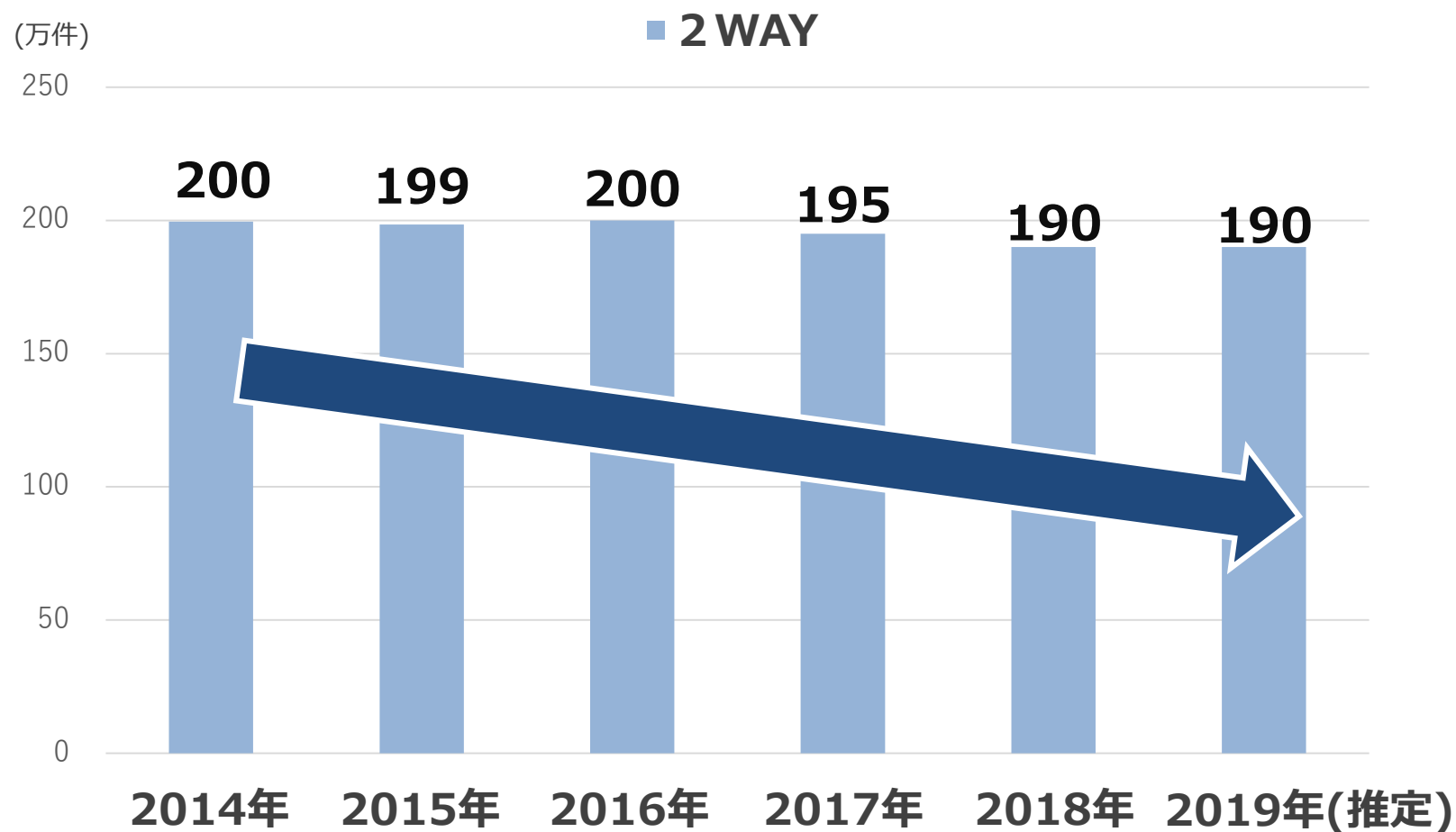
約430万ユーザー



宅配水市場は着実に顧客数が増加している

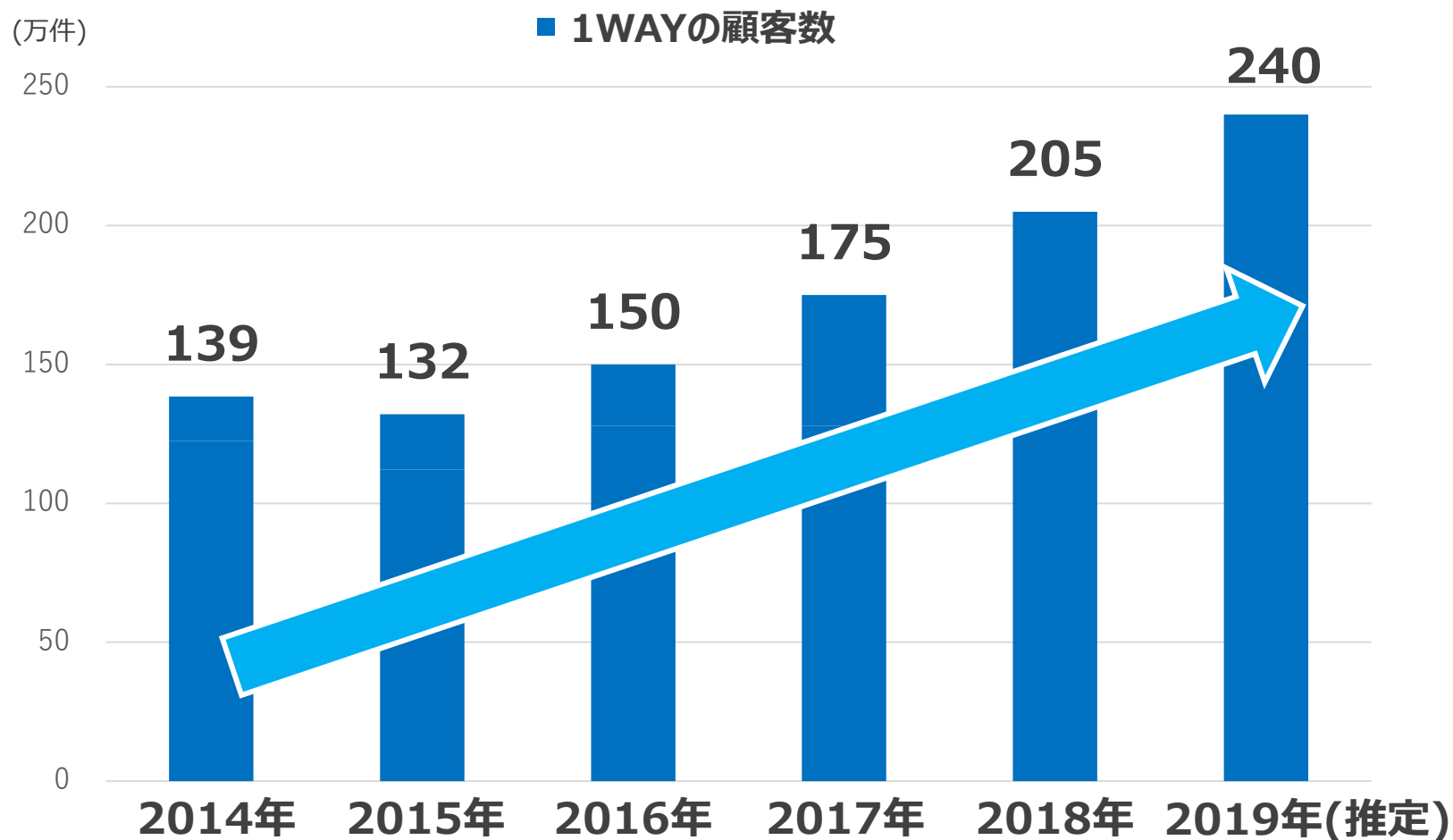
※日本宅配水&サーバー協会(JDSA調べ)

2WAYの顧客は減少傾向



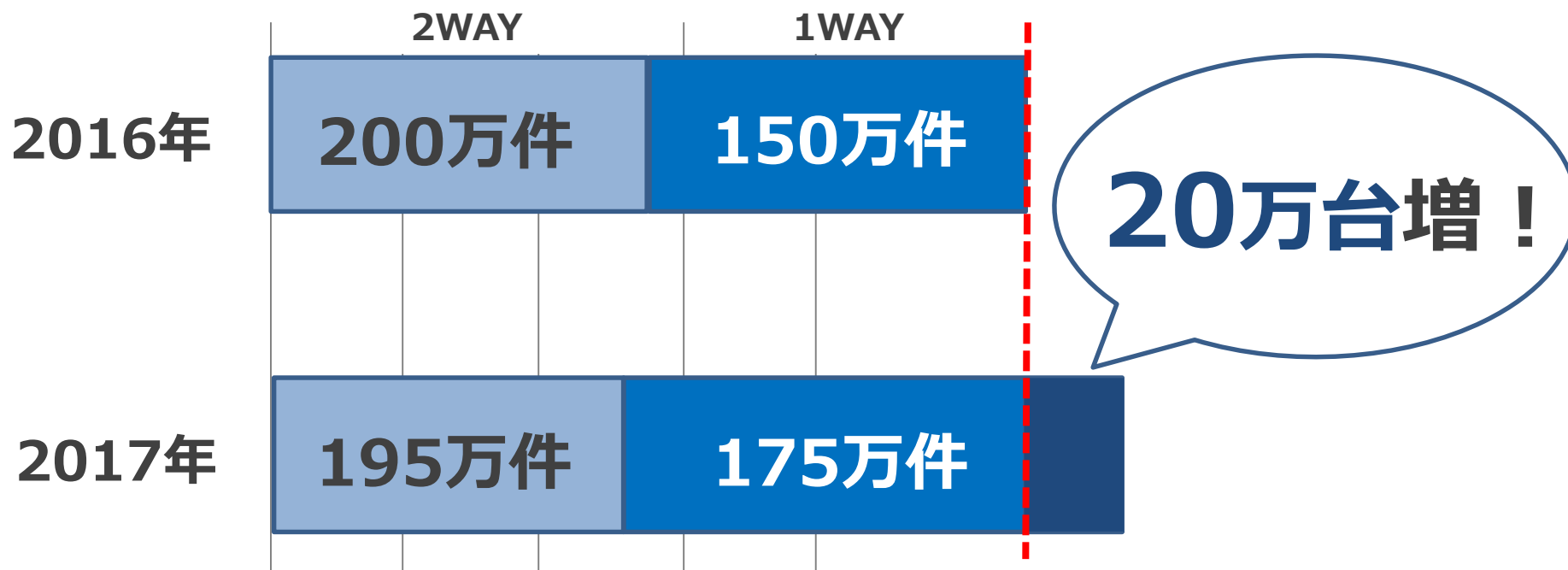
※日本宅配水&サーバー協会(JDSA調べ)

1WAYは順調に顧客を伸ばしている



※日本宅配水&サーバー協会(JDSA調べ)

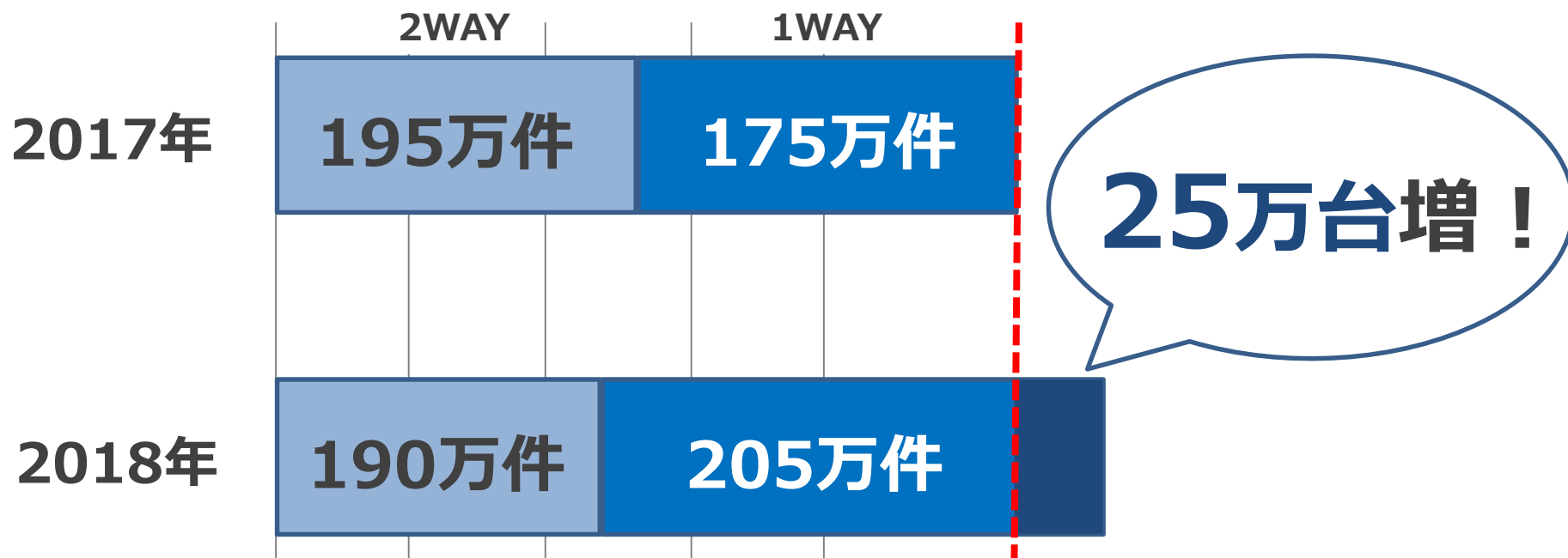
2017年度



20万台増のうち
PWの純増は15万台

※日本宅配水&サーバー協会(JDSA調べ)

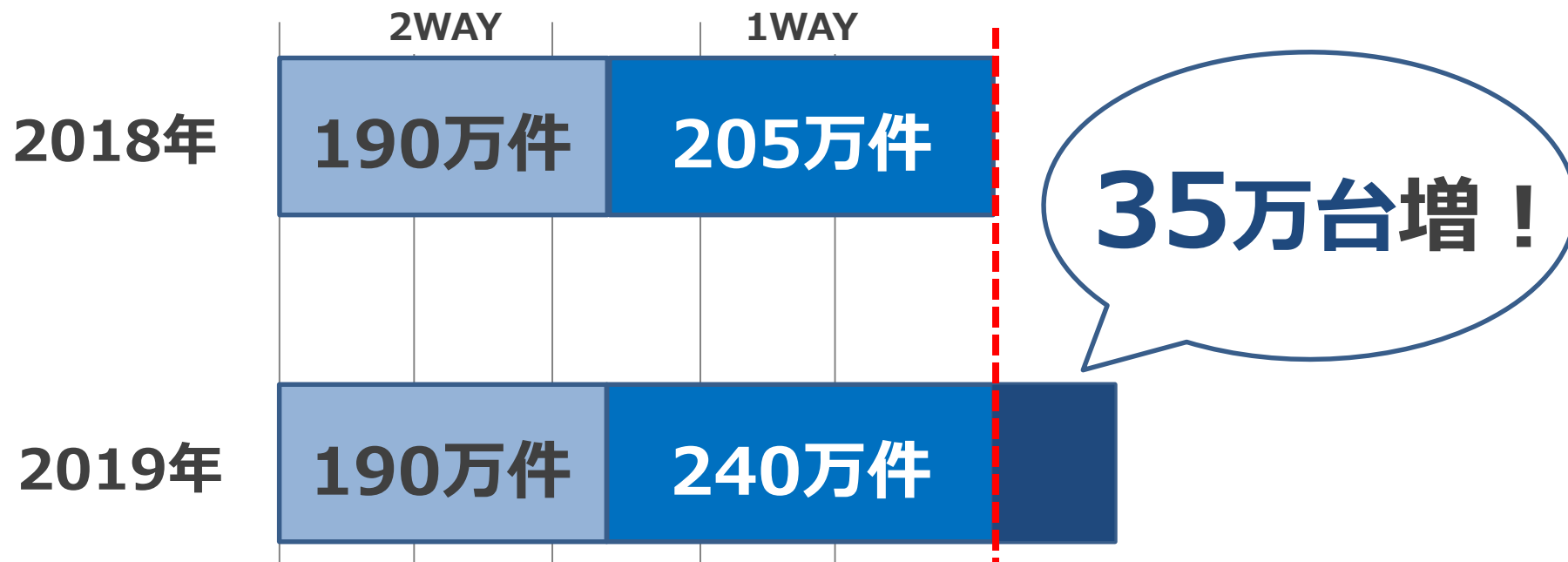
2018年度



25万台増のうち
PWの純増は18万台

※日本宅配水&サーバー協会(JDSA調べ)

2019年度

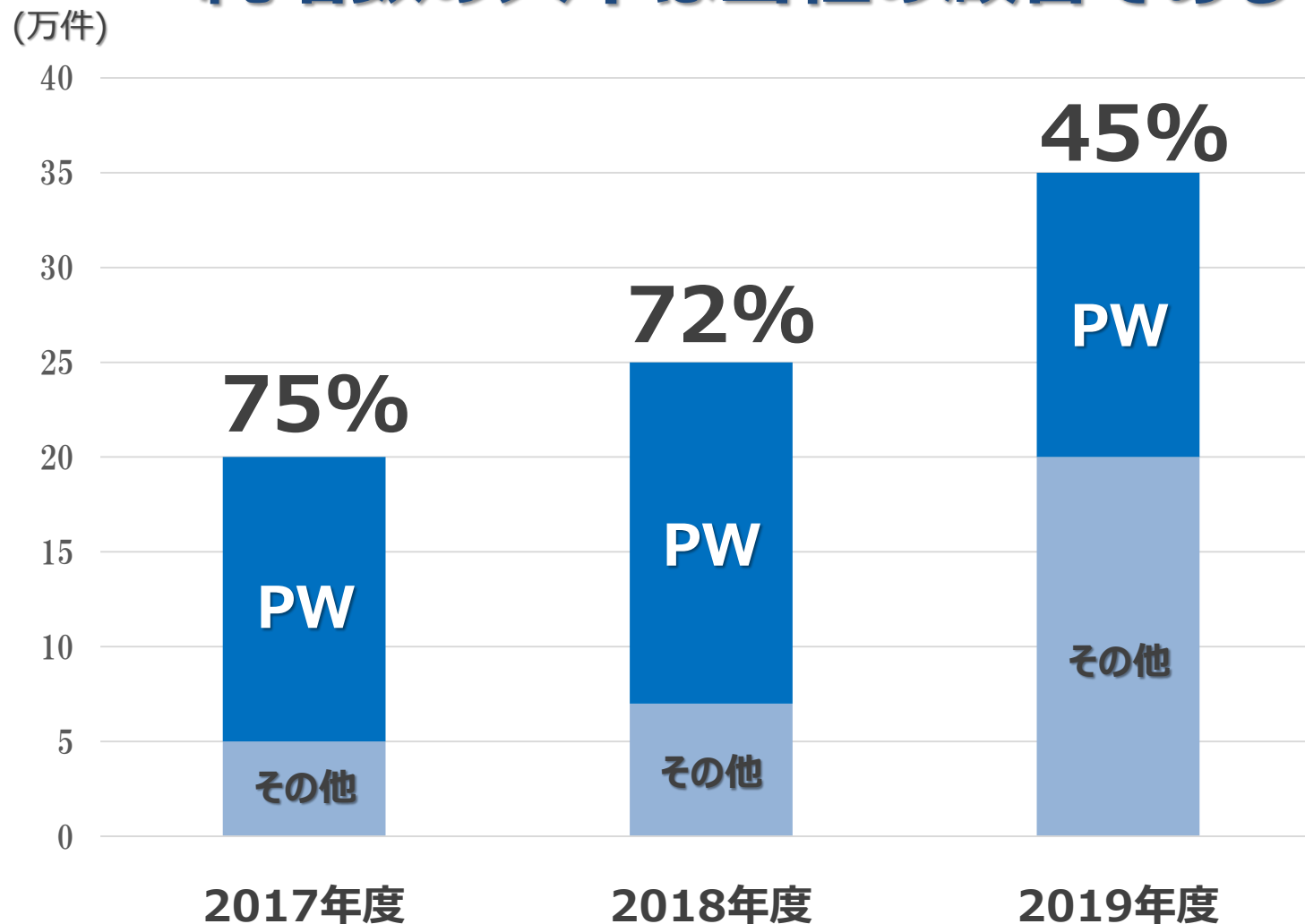


35万台増のうち
PWの純増は15万台

※日本宅配水&サーバー協会(JDSA調べ)

Ⅱ.当社が見込む市場 2-8.宅配水市場—純増数シェア

純増数の大半は当社の顧客である



本日のご説明内容

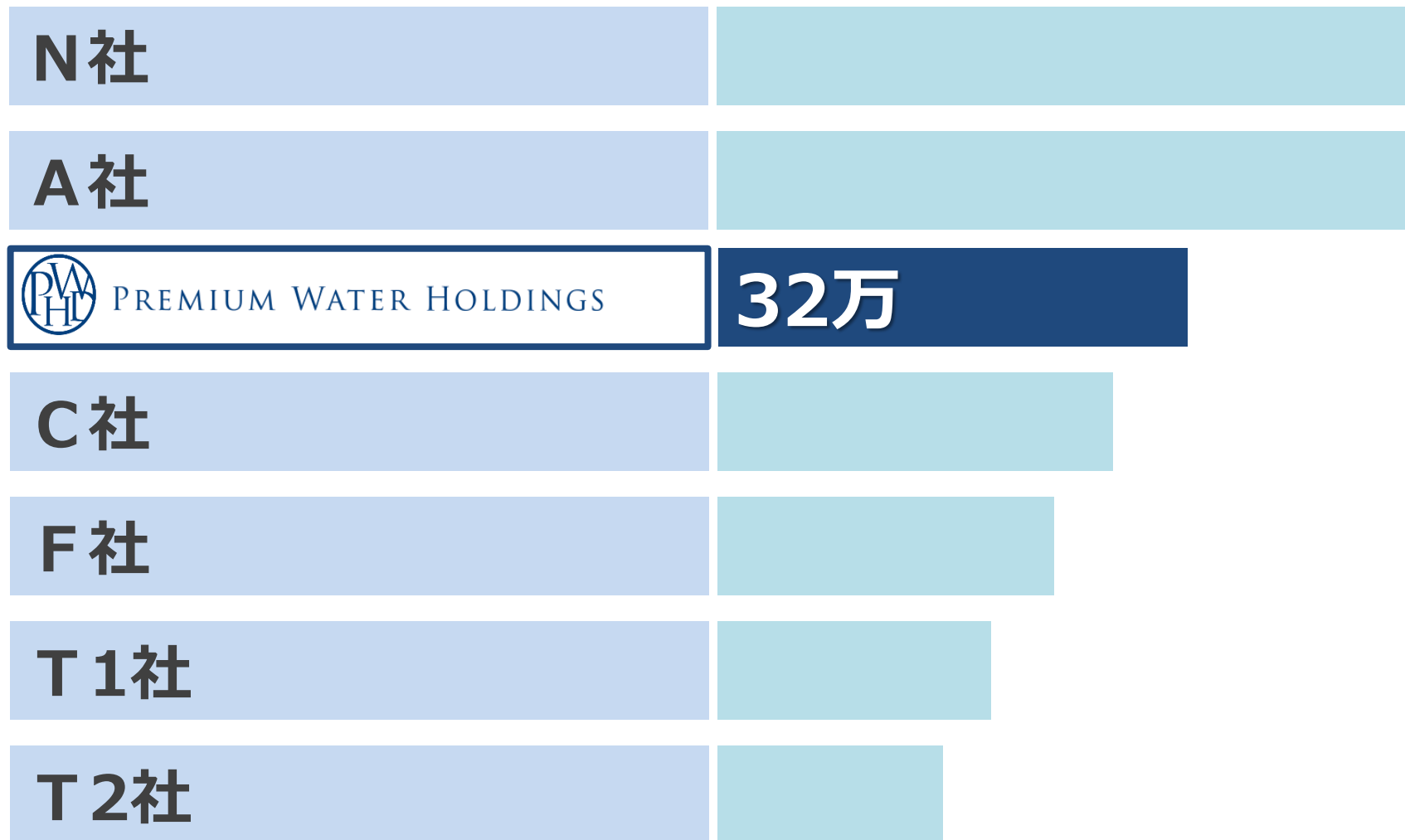
Ⅲ.統合からの成長



Ⅲ.統合からの成長 3-1.2016年 統合前

N社	50万
A社	47万
C社	25万
F社	20万
クリティア	19万
T1社	18万
T2社	16万
プレミアムウォーター	13万

2016年度 宅配水業界シェア 3位



2017年度 新規獲得件数

21万件

2017年度 宅配水業界シェア 2位

N社



PREMIUM WATER HOLDINGS

47万

A社

C社

F社

T 1社

T 2社

2018年度 新規獲得件数

29万件

2018年度 宅配水業界シェア 1位

 PREMIUM WATER HOLDINGS

65万





2019年度 新規獲得件数

28万件

2019年度 宅配水業界シェア 1位



PREMIUM WATER HOLDINGS

81万



N社

A社

C社

F社

T1社

T2社

PWHDは売上300億円突破

売上300億を ミネラルウォーター市場で考えた場合

Ⅲ.統合からの成長 3-8.ミネラルウォーター市場での当社の売上

ミネラルウォーター市場シェア

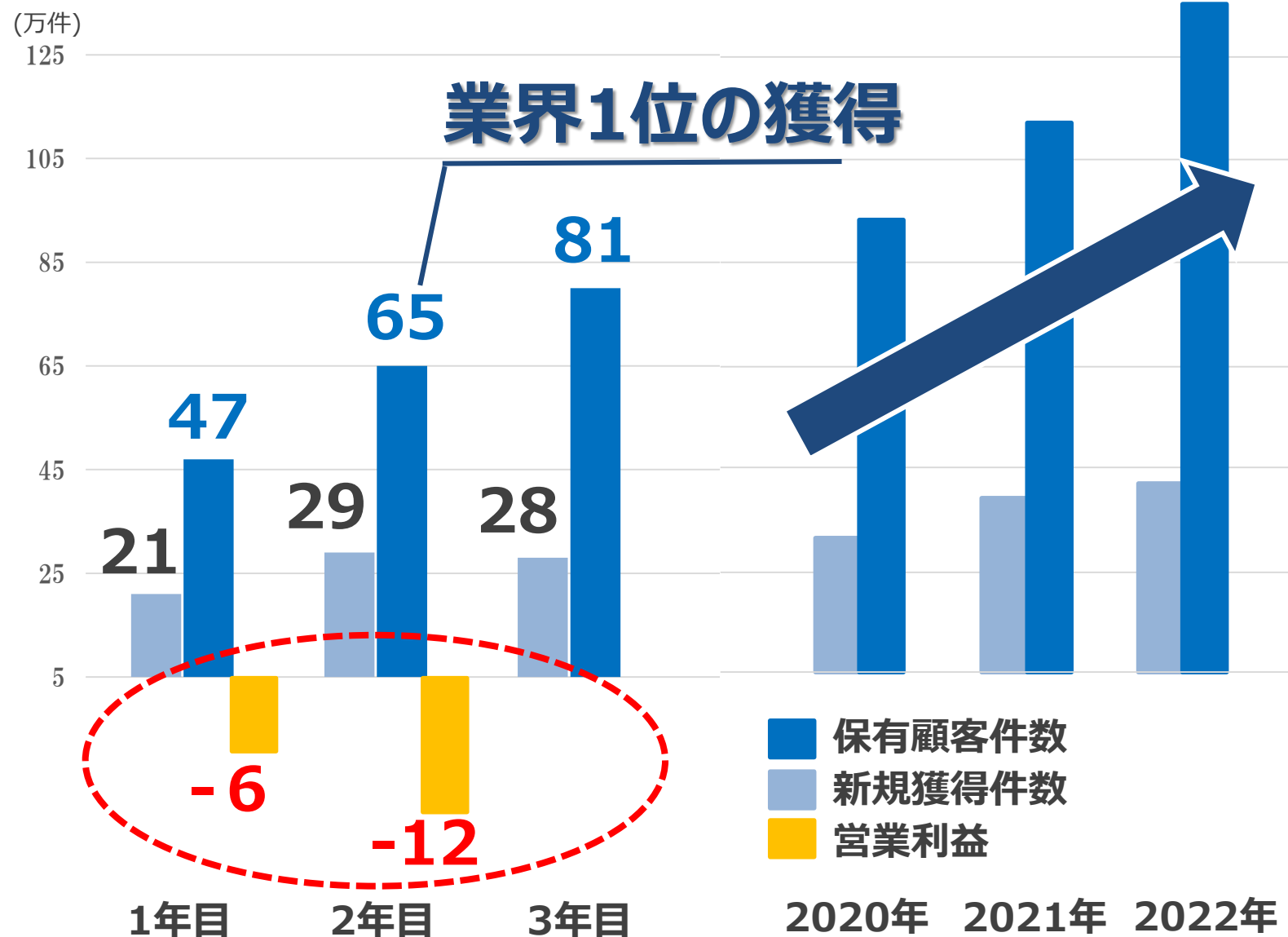
NO	社名	売上	シェア
1位	A社	1,225億円	41.5%
2位	B社	500億円	16.9%
3位	C社	328億円	11.1%

第4位 プレミアムウォーターHD 303億円

4位	D社	281億円	9.5%
5位	E社	105億円	3.5%
6位	F社	73億円	2.5%

※2019年版ミネラルウォーター市場の現状と将来展望度時点(矢野経済研究所推計)

Ⅲ.統合からの成長 3-9.新規販路の拡大



本日のご説明内容

IV.顧客純増について



✓水源の開拓ができる

✓物流の構築ができる

✓無駄のない設備投資ができる



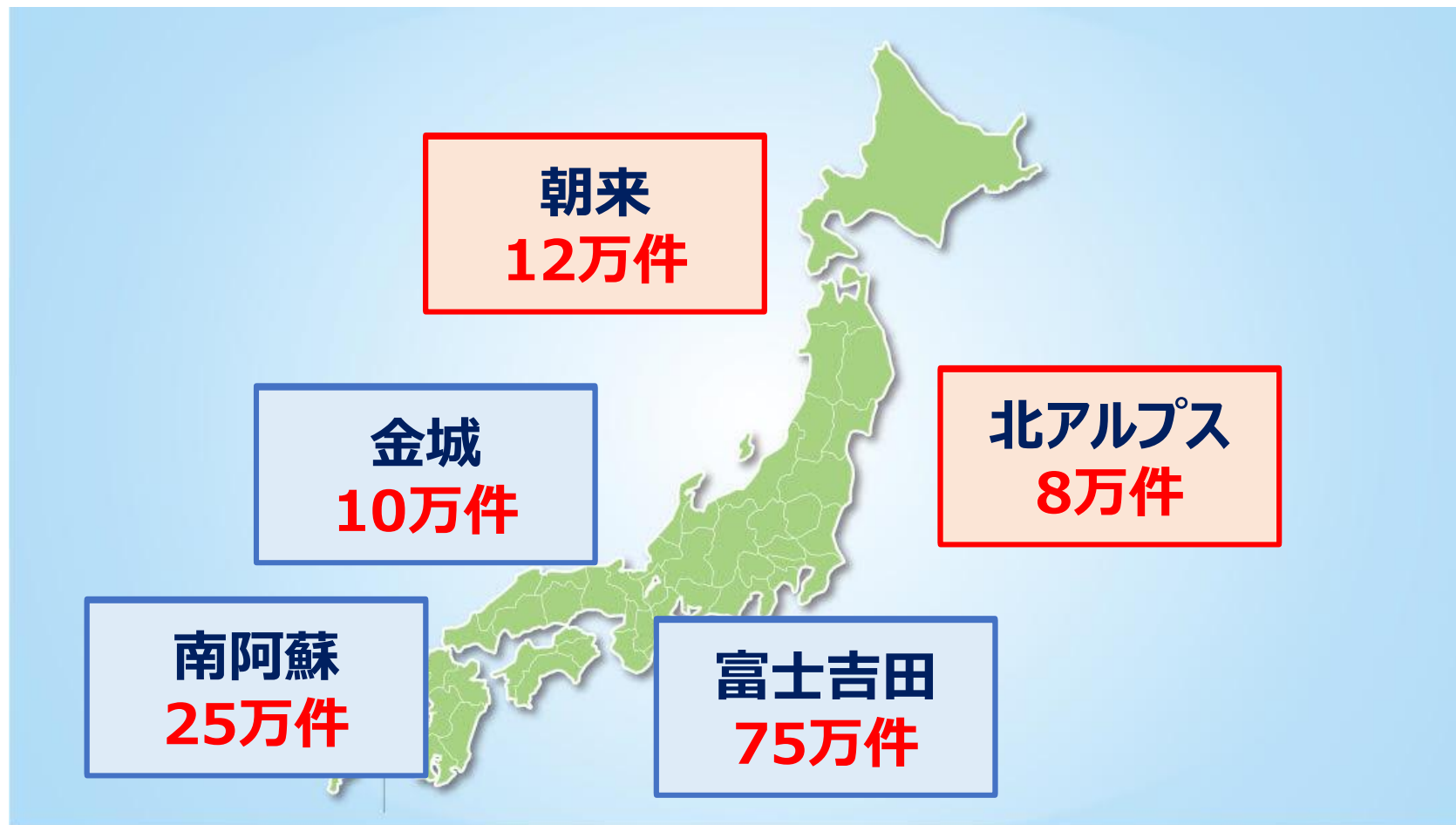
未来が予想できる

✓水源の開拓ができる



2019年度に2つの水源をリリース

①供給量の確保



最大130万ユーザーまで供給可能！

②災害時のリスク分散

**震災により、
南阿蘇村工場は出荷不能に**

金城



**2016年4月16日
熊本地震発生**

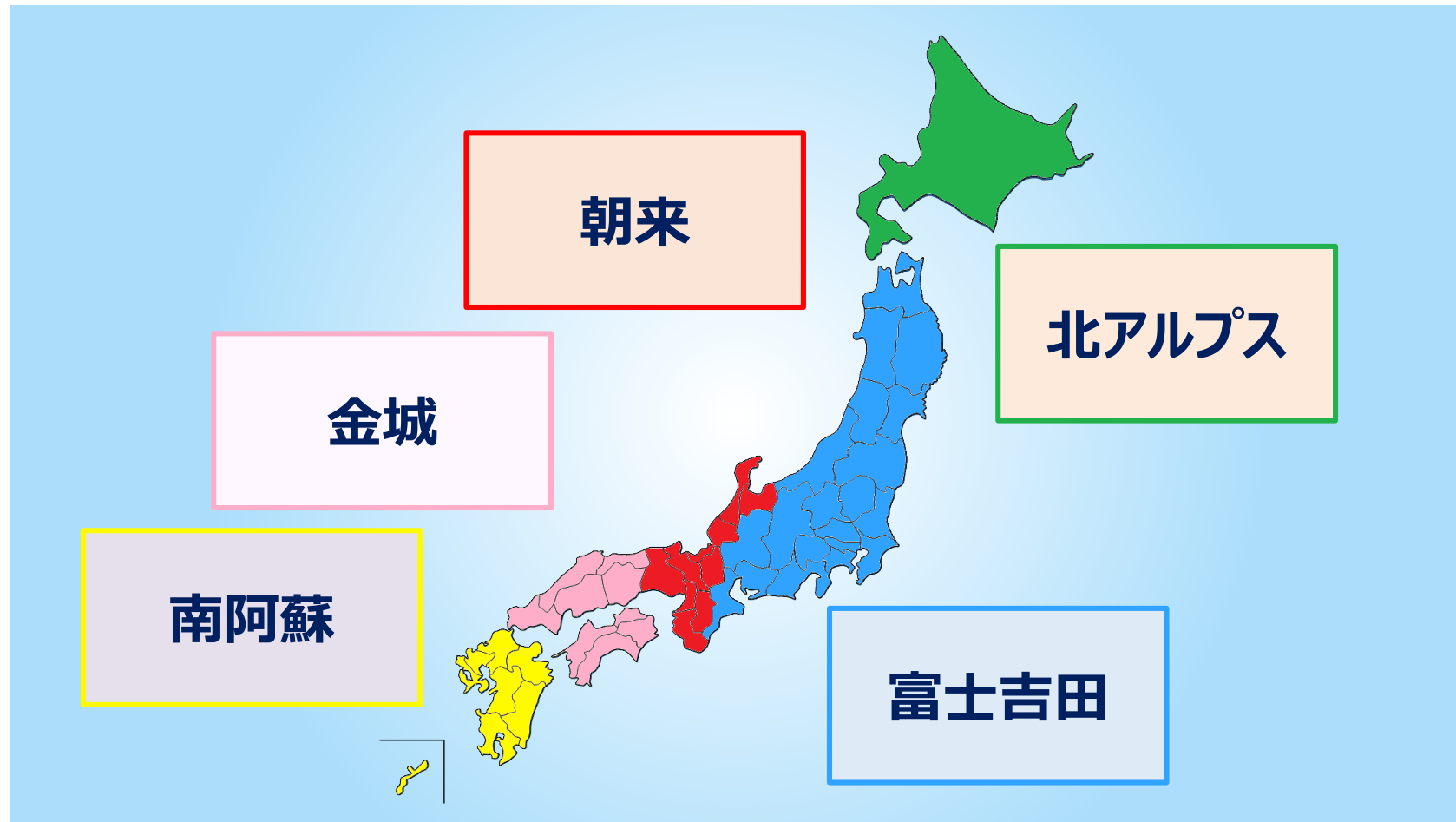
富士吉田

②災害時のリスク分散

**他水源より出荷を開始
九州地域をカバー**



③各エリアの物流戦略の構築



当社にしか出来ない水源開拓による物流戦略

✓物流の構築ができる



エリアでの純増
定期配送
十分な物量



トラック手配が可能

✓無駄のない設備投資ができる

A社の場合

ユーザー数増大を見越して

4億円かけて設備投資し、**30万本**生産可能に。



ユーザー数が増えず、生産は**10万本**にとどまる

✓無駄のない設備投資ができる

当社の場合

ユーザー数増大を見越して

4億円かけて設備投資し、**30万本**生産可能に。



ユーザー数が増え、生産効率も上昇

当社の実例

プリフォーム内製化のために**4億円投資**

1本あたりの生産コストを**20円削減**！

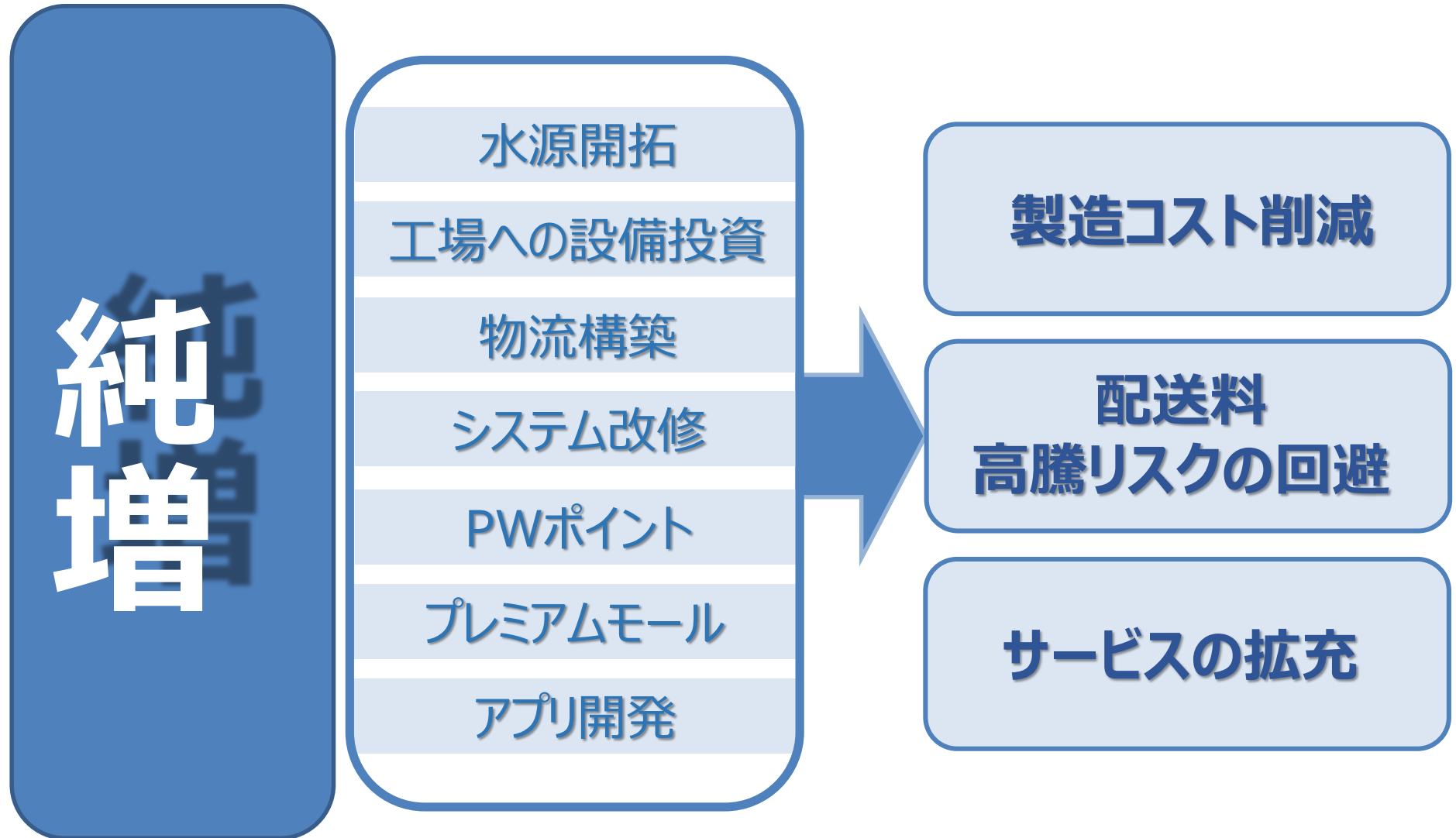
導入初年度の出荷本数
1,000万本

×

1本あたりのコスト削減
20円

初年度、コスト削減により**1.6億円利益向上**
投資回収し、3年目以降利益を生み出す

市場での圧倒的優位性を確立

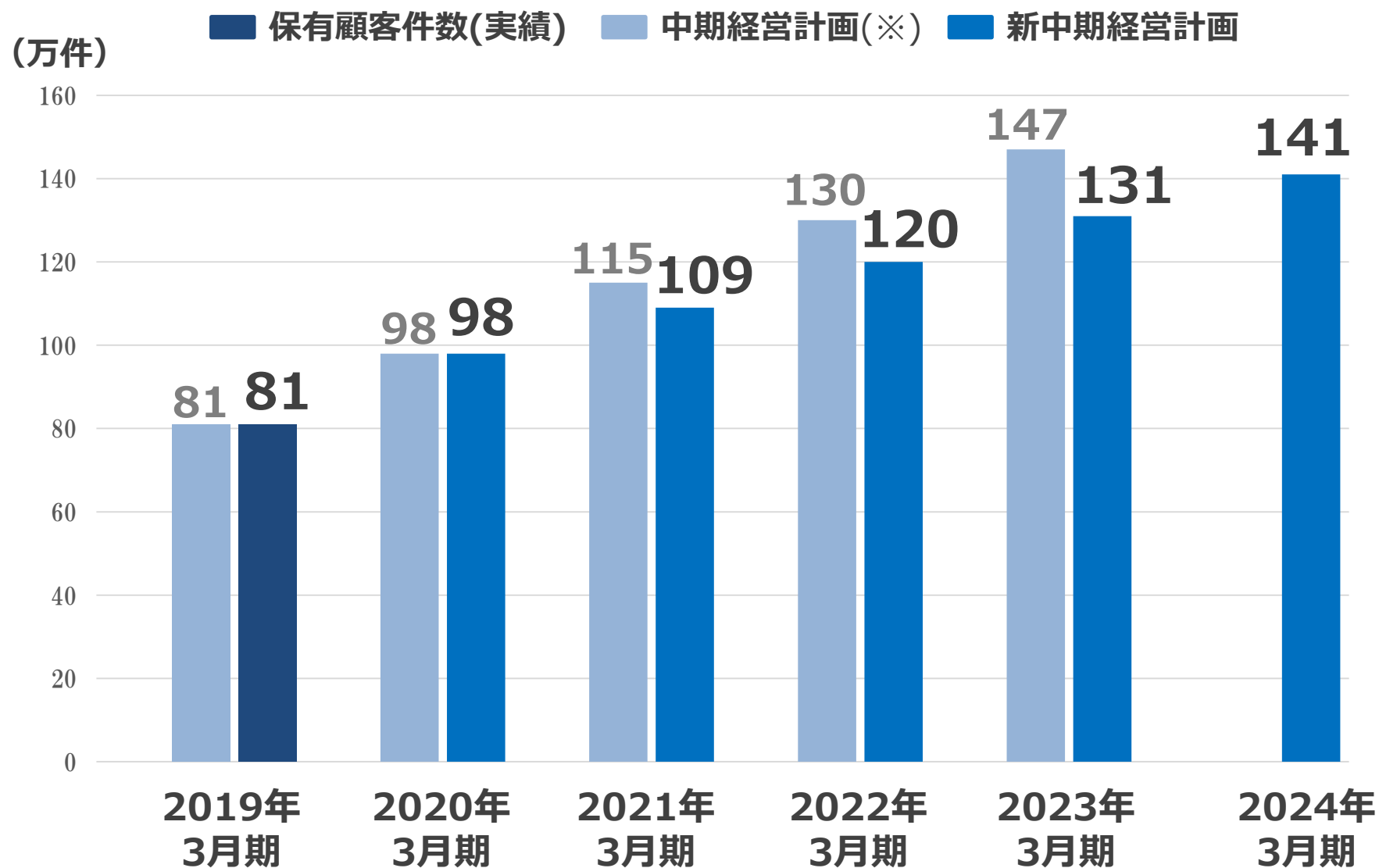


本日のご説明内容

V.新中期経営計画

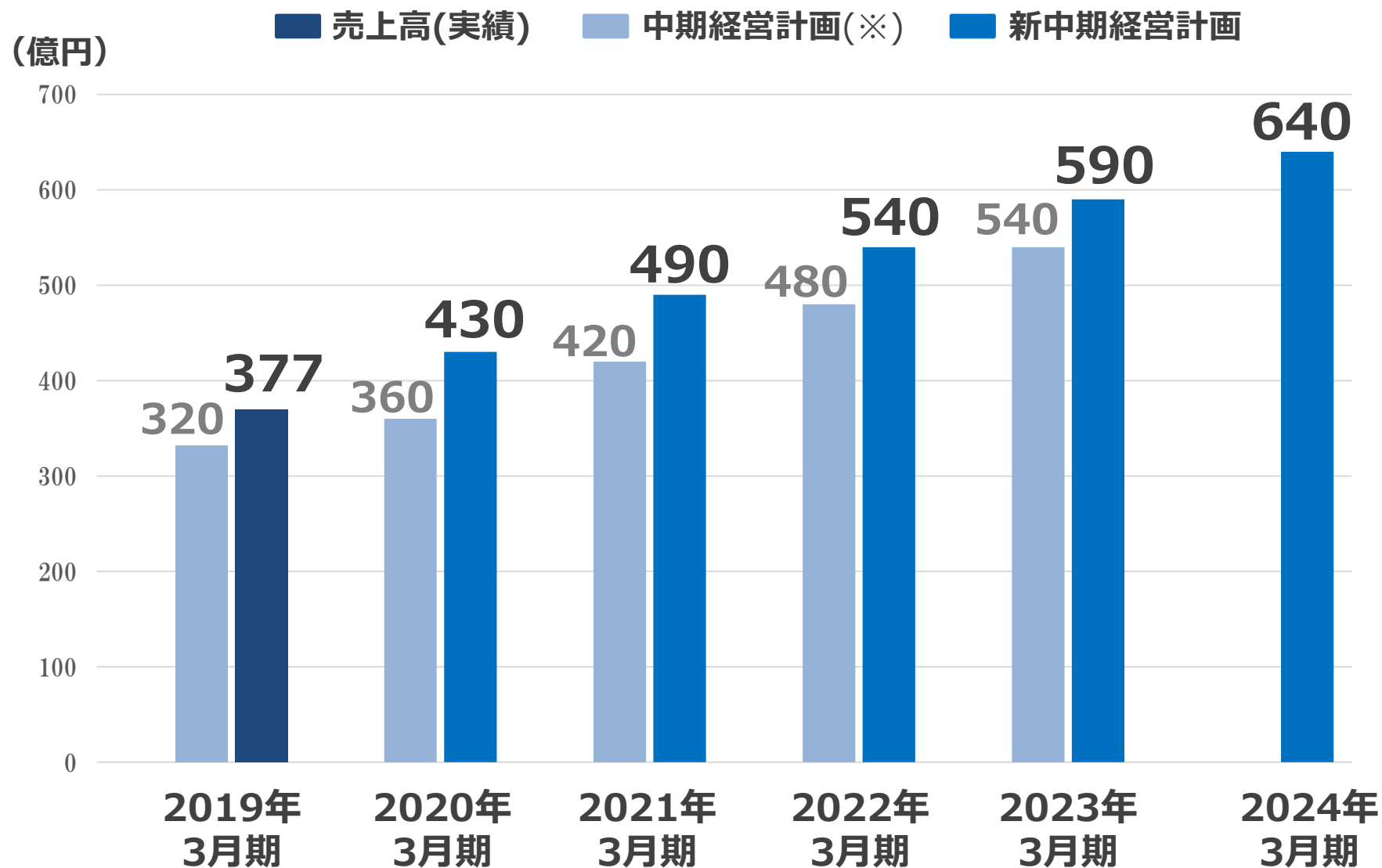


V.新中期経営計画 5-1.保有契約件数



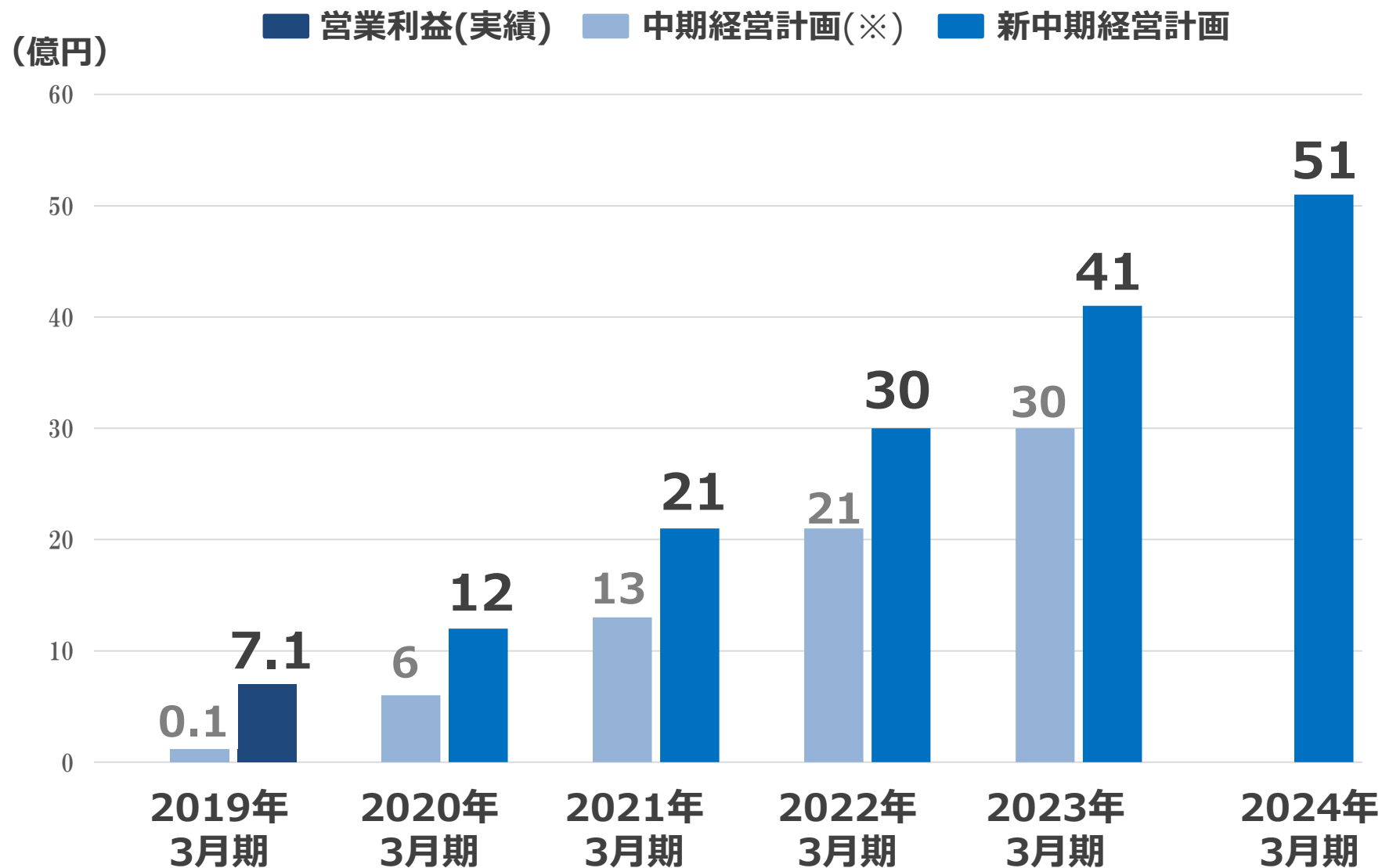
※2018年5月10日発表時のもの

V.新中期経営計画 5-2.売上高



※2018年5月10日発表時のもの

V.新中期経営計画 5-3.営業利益



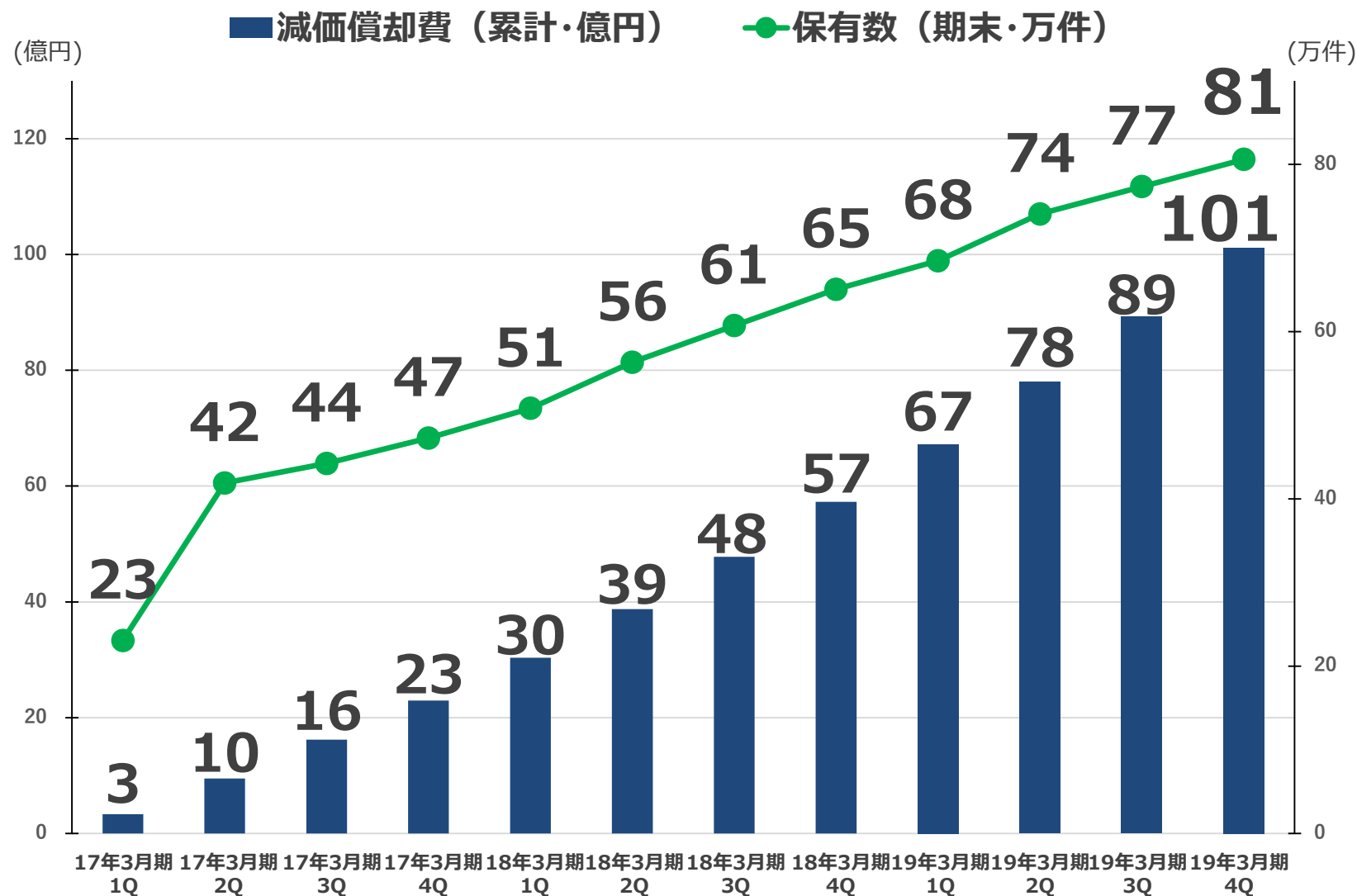
※2018年5月10日発表時のもの

本日のご説明内容

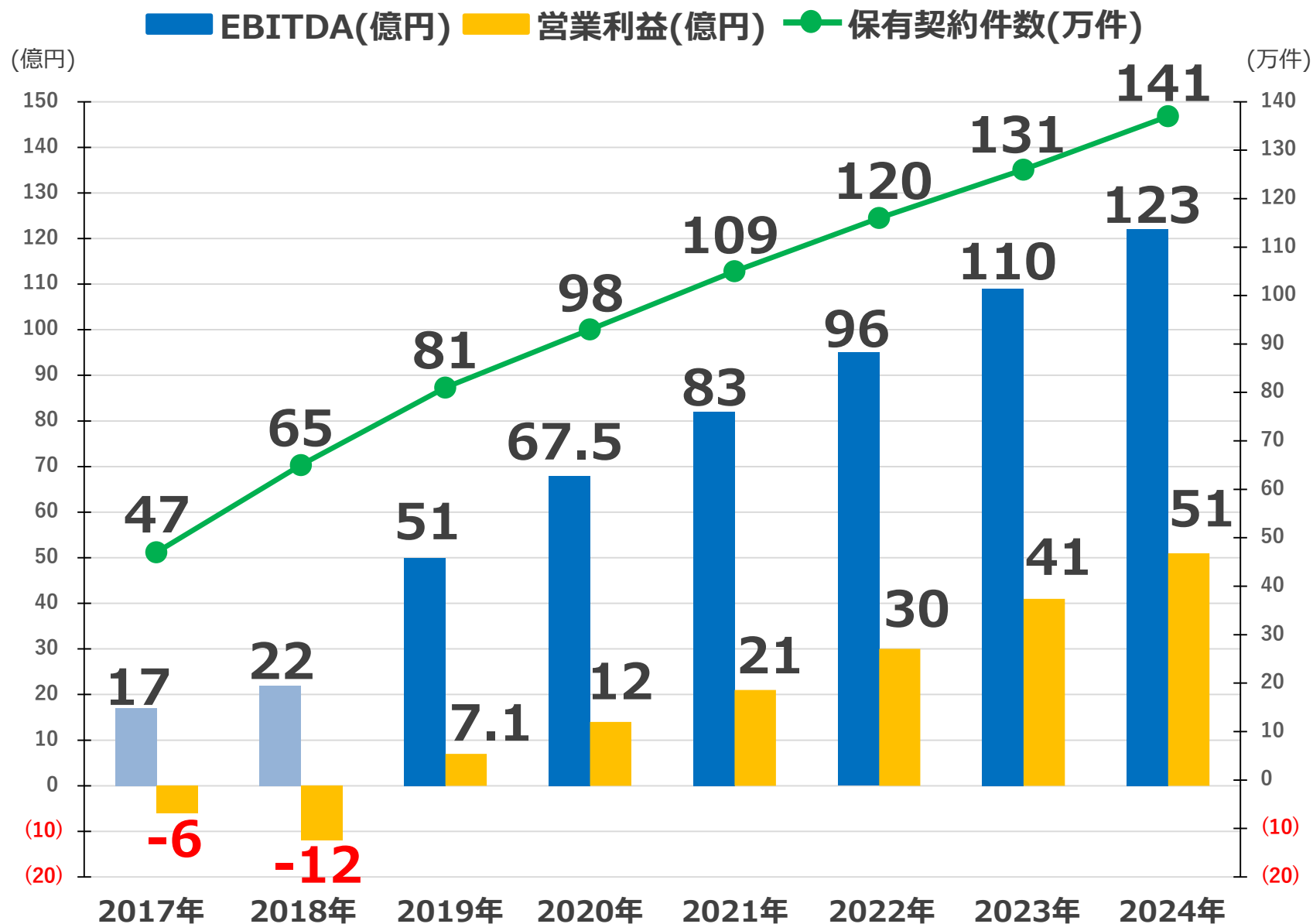
VI. EBITDAについて



VI. EBITDAについて 6-1. 減価償却と保有の推移



VI. EBITDAについて 6-2. EBITDAと保有の推移





PREMIUM WATER
HOLDINGS

1.掲載された情報についてご注意いただきたい点

当資料を通じ、財務情報、経営指標等の情報の開示を行います。当社は、当資料を通じて情報開示を行うにあたり細心の注意を払っておりますが、当資料に掲載した情報について内容の正確性等を保証いたしません。当資料による情報開示は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断でお願い致します。当社は、当資料に掲載された情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

2.将来の見通しに関する事項について

当資料に掲載されている情報には、業績予測等の将来の見通しに関する記述が含まれていますが、これらはリスクや不確実性を内包するものです。業績予測等の将来の見通しに関する記述は、その実現性を保証するものではなく、当社を取り巻く経営環境や市場動向の変化等により、実現しない可能性があることにご注意ください。

3.当資料の運用について

当資料は予告なく配布の中止や内容の変更を行うことがあります。当社は、当資料を利用できなかったことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

<お問い合わせ先>

株式会社プレミアムウォーターホールディングス IR・広報担当

メールアドレス：ir@premiumwater-hd.co.jp